

氏名 (学校名)	中村 颯希 (國學院大学)	国 (希望する体験)	カンボジア	企画テーマ	子どもが気兼ねなく学校へ行く為に 大人への農業授業
受入れ先	KHJ グループ	期間	2019年 8月17日～9月1日	担当者	青木 貴え 様
日付	体験日誌	日付	体験日誌		
8/19	スィカ・冬瓜の種植えの手伝いをした。水やりは特に行わず雨や露を使って育てるそうだ。貧しい農家は肥料等その他の手間はかけない。以前育てたもののツルや雑草、砂利を取り除かれておらず、植物に必要な栄養が足りないのではないかと感じた。牛を使って耕す為、どうしても土の固さにムラができてしまう。午後は米の苗も植えたが、土壌の問題は同様にあった。	8/26	アンコールワットへ観光に行った後、トゥクトゥクの運転手さんの家へお邪魔し、ご馳走になった。農村部やプンペンとは異なり、多くの観光客であふれていた。入場料は37ドル、そして近隣のアンコールワット内での産業も栄えていた。街の様子も昨日と見えたものとは異なり、物価も他の地域より高かった。観光事業が活性化すれば、他地域も貧困から抜け出せるのではないかと感じたものの、そのような場所を見けるには生み出すにはなかなか難しいと思った。		
8/20	午前にかぼちゃの蒔きの手伝い、午後は通訳のビチカーさんの出身高校へお邪魔させて頂いた。今は雨季の為、塾として開講しており、科目にもよるが、生徒は自分の好きな時間に選んで登校しているようだった。化学の先生とお話させて頂いた。「受験をする道具は国が買ってくれない為、座学しかない。受験をして子ども達にもっと楽しく学ばせてあげたい」と仰った。1年中学校に行かせてあげたい。教育の水準もありたいと感じた。	8/27	光語学スクールで日本語教師補助をした。日本の学校とは異なり、センテンスを教えず音読し、それ元に自分で例文を作るというような流れだった。今日であれば、thisとthese、thatとthoseの違いをとりえ、複数形に変えて答えるのがポイントであったが、2つの違いを理解しないうちに単数で答え、とりえが添えられてから“-s”をつけたように見受けられた。発音するのは良いのだが、より詳しい説明を要すると思った。		
8/21	マンゴー農園、胡椒農園、塩田等、コンポト方面へ観に行きた。通訳のビチカーさんによると、昔はバベ人気はなかったらしいが、観光客の姿が見られた。胡椒は高く売れるものの、作るのに手間がかかるらしく、農家はこの地域でも少数しかいないそうだ。次に市場にも行ったが、カニは高く手付届き難いそうだ。コンポトの観光事業が活性化すれば、観光客からの収入が見込めると感じた。	8/28	光語学スクールで日本語教師補助をした。1時間目には問題を英語で書き、2時間目には答え合わせをした。“can't”と“don't can”と間違えて答えていたり、be動詞が抜けていたり、理解するのが難しかったが、空き時間に自分の名前を日本語でどうやって書くのか教えると興味を持ってもらえて良かった。3時間目は3人組での英会話の仕方と単語の学習をした。たくさん英会話練習をしているので、アクセントの位置まで徹底できればより良いと思った。		
8/22	午前中はかぼちゃの蒔きを手伝った。20日には異なる山の畑で行った。この山には種を食べという動物がいるので、前より深く植え、土に埋めにかぶせて欲しいと言われた。動物も逃げずには仕掛けはない為、同じ地域でもその畑によって工夫が必要と学んだ。午後は動物園や独立記念塔等を見ながらプンペンに向かった。農村との街の雰囲気が大きく違い驚いた。	8/29	明日学校で行われるプログラムの打ち合わせをした後、栗原先生の家庭教師と入りの日本語の授業に同行させて頂いた。明日は日本・カンボジア両国の歌やダンス、ゲームを披露することになった。文化の違いも分かると同時に、楽しみたい。日本語の授業では、普通高校などの模擬授業では予想し得ない、外国入らなければ日本語の難しさを伝えることができた。助詞や助動詞のように異なる2つの単語の違いに特に着目しようと思った。		
8/23	光語学スクールで日本語教師補助をした。音読が多いが、少人数制のクラスなので、1人1人が1日はホワイトボードの前に立ち、発音する機会ができて良いと思った。週の最後という事でゲームのような形式で復習をすることらしいが、児童の集中力のなさやそれと先生があまり注意しない点が課題と思われる。手の空いた子にワークシートを用いる等の工夫があっても良いと思った。	8/30	今日は1時間の授業をした後、プログラムを午前・午後とも行った。プログラムでは、カンボジアのゲーム、日本のゲーム、そして両国の歌とダンスを披露した。1週間という短い期間ではあったが、子ども達から近付いて来てくれて、又ゲームや歌、ダンスを通して更に笑顔になってもらえて良かった。日本もカンボジアでも、他の国であっても、子ども達が興味を持ったことと置きないうる環境を作りたいと改めて感じた。		
受入れ先 担当者の コメント	カンボジアの農村に滞在して活動することは大変貴重な体験だったと思います。実際に生活をしながら、農作業の手伝い、学校見学を経て気づいたこと、感じたことを来週からのインターンシップに活かしてください。	受入れ先 担当者の コメント	今週は光語学スクール2でカンボジア人教師の補助をしてもらいました。日本人スタッフがいない中、言語や文化の違いを超えて子どもと関わってくれました。最後のプログラムでは子ども達が本当に喜んでいました。		
1週間の 感想と 今後の目標	1週間農村にお世話になる中で、カンボジアの農家に不足しているのは農業の知識というよりは、土地の栄養や土を最善の状態にする為の術だと感じた。自然の物を用いても肥料は作れるし、くわ等があれば、機械がなくてももう少し雑草や砂利を取り除けると思った。そして学校教育では、座学は出来るものの、やはり農業の時期は休み子どももいるし、道具が完全に揃っていないということが分かった。すぐに出来ることとして、学校に道具を寄付できれば良いと思う。	1週間の 感想と 今後の目標	7ヶ月語が分からず、英語の授業とすることが出来なかった。授業計画から構成まで、日本で私が学んでいるものとは異なる方法が見られて良かった。一方で子ども達が行き止まる箇所を見ていると、文法構造をしっかりと説明しあげた方が良いのではないかと感じた。それから、日本語の授業を通してカンボジアの人と話すことが出来た。文化の違いや食べ物等両国の相違点や、日本語で難しい所を知る機会となった。光語学スクールで学んだことで日本へ持ち帰り、更に学んでいこうと思った。		

# 総 評

- ◆氏 名: 中村 颯希 ( 國學院 大学 )  
◆受け入れ先: KHJグループ  
◆企画テーマ: 子どもが気兼ねなく学校へ行く為に 大人への農業授業  
◆体験期間: 2019年 8月 17日～2019年 9月 1日

## <感想>

今日のインターンシップ期間2週間のうち、初めの1週間はコンボト衆の農家にホームステイさせて頂き、農業のお手伝いや現地の小学校の視察を行なった。

まず農業についてだが、カンボジアで育てている作物はスイカ、冬瓜、カボチャ、とうもろこし、キュウリ、そして米等があった。私はスイカ、冬瓜、かぼちゃの種蒔きと稲の田植えを手伝った。農業については浅はかな知識ながら、植物にとってあまり良い環境とは言い難かった。というのも、機械がなく十分に畑を耕せない為、雑草や砂利がタタク残った土に種を蒔いていたのだ。牛を使って耕し、手作業で畝を作るわけだが、ある道具といえば鋤1本のみ。せめて先の分かれた備中鋤や、先に発芽させてから苗を植える為のポリポットがあれば、少しは効率的に作物を育てられると思った。また、肥料を使わず雨と露のみで育てているそうだ。これでは長い目で見た時に土地が痩せてきてしまうのではないかと考えた。枯れ葉や落ち葉を用いても肥料は作ることが出来るので、その知識をつけ、次の機会に教えられると良いと考える。

そして、残りの1週間は光語学スクールで教師の補助をした。クメール語が分からず自分だけの授業は難しい上に、きちんと伝わっているのか、どこが分からないのか理解に苦しんだ。しかし、日本語の授業では、日本で暮らしているだけでは分かり得なかった、外国人ならではの日本語の難しさを知ることが出来た。助詞や似ているように異なる2つの単語の違いに、これから着目してほしいと思う。最終日にはプログラムを通して、言葉を超えて子ども達と楽しむことが出来、自分にとって貴重な経験にすることが出来た。

## <受け入れ先コメント>

受入れ担当者: 青木貴之

役職: 社長補佐

中村さんのインターンシップは初日からバイクで農村に行き1週間弱のホームステイから始まりました。当初は女の子で初めての海外だと聞いていたので少し心配していましたがそのたくましさに正直驚かされてしまいました。日本人からすると、少し奇抜な食材や料理を普通に美味しく食べている様子が印象的でした。何よりも中村さんの明るさと人当たりの良さで通訳のビチカーさんを始め、多くのカンボジア人や子どもたちと仲良く過ごしていたことは本当に素晴らしいと思いました。カンボジアについて知りたい、カンボジアの人と関わりたいという姿勢に国際協力の形が垣間見えました。中村さんの当初の企画である～子どもが気兼ねなく学校へ行く為に大人への農業授業～は今回、実現できませんでしたが農村家庭の複雑な状況を肌で感じる事ができたと思います。このインターンシップが中村さんのこれからの人生に活かせる“学び”になればとても嬉しいです。そしてまた中村さんがカンボジアに戻ってきた際に、農村部への授業や村おこしなどをプロジェクトとして一緒にできたらと期待して待っています。